

平成 30 年度 12 月 SSH 活動記録

平成 30 年度SSH台湾サイエンス研修保護者説明会(2018.12.14)

SSH海外研修として毎年行っている台湾サイエンス研修が、2019年1月8日(火)～11日(金)の日程で今年も行われます。今年度は、物理、化学、生物、地学の分野から12名の生徒が選ばれました。この研修の目的は、台湾で自然観察、地質巡検、自然科学に関する教育機関等の訪問、現地校英語サイエンス交流を通して、「創造性・国際性豊かで多面的な視点を持つ」、「国際性及び英語運用能力やコミュニケーション力を高める」、というものです。特に、今年度からは、「対話的な協働実践力」をつけるため、科学英語の授業でディベートを取り入れ、自分の考えを伝える、相手の伝えたいことをよく理解して、議論を進めていくスキルの向上に努めています。交流校において、自分たちの研究をポスターにして英語で発表し、質疑応答ができるよう、生徒たちは毎日事前研修に取り組んでいるところです。

この日は、保護者を対象とした説明会が行われ、生徒・保護者の皆さんが参加して、旅行社の担当の方から台湾の概要や研修先について、また、旅行に関する様々な情報について、説明を受けました。サイエンス研修が目的のため、日程はなかなかハードです。成功高級中学、台湾師範大学附属高級中学、台湾師範大学でポスターセッションや実験を行ったり、国立台湾科学教育館や台北動物園、また、野柳地質公園で地質巡検など、盛り沢山！しかし、生徒たちはみな、楽しみにしています。今回パスポートを取得して、初めての海外、という生徒もいます。日本とも歴史的に深いつながりのある台湾の文化・歴史をしっかり学び、現地でサイエンスを通じた充実した研修ができるよう、みんな真剣に説明会に参加していました。

国立台湾科学教育館



教育熱心な台湾で科学教育のために1956年に台湾唯一の公立科学博物館として設立された。地上10階、地下1階からなる円形の建物は中は吹き抜けとなっており、参加型の展示も多くあり、子供だけではなく大人も一緒に楽しく学ぶことが出来る。科学が難しいことではなく、日常生活の中で科学に触れられるようなテーマになっており、観光客のみならず台湾でも人気のスポットである。

野柳地質公園



野柳の地層は主に傾いた層状の堆積岩で構成されています。軟弱な岩層は海水に侵食されて凹んだ湾になりますが、逆に硬くて侵食に強い岩石は突き出て岬になります。遠くから野柳岬を眺めると、海の中に亀が潜っている様に見えることから、その光景は「野柳亀」とも呼ばれています。



SSH 探究Ⅱ 2学年理数科校内研究発表会(2018.12.18)

12月18日(火)に、2学年理数科の生徒によるSSH探究Ⅱの校内研究発表会が、球陽高校の理科教室を使って行われました。研究発表会には、本校の職員その他、琉球大学の先生方や1学年理数科の生徒、そして球陽中学の生徒が来て下さいました。今回は、球陽高校の1学年と球陽中学生の為に、ポスターのA4白黒版のポスターも印刷して、ポスター発表に来た人に配布しました。その他、生徒と職員に一言コメントを書いて頂くシートを準備して配布しました。また、今回は2019年2月2日(土)に行われる球陽高校SSH生徒研究発表会で発表する代表グループを選出するために、各科目の担当の先生方の審査も行われました。選出されたグループは、口頭発表部門・英語ポスター部門・ポスター発表部門で発表します。

発表会では、大学の先生方から、中間発表よりもさらに研究を進められるように、各グループごとに御助言を頂きました。球陽中学生と1学年理数科の生徒も、真剣な姿勢で最後まで先輩の発表をよく聞いて、分からないところも積極的に質問をしていました。同時に、各分野の審査員(各分野の指導教員)の先生の審査も行われました。本校が設定したルーブリックに従って、審査員がすべてのグループのポスター発表を審査しました。審査中は、審査員からの質問で生徒と活発なディスカッションが行われました。生徒は、審査員からの様々な質問にも、全て科学的な根拠に基づいて一生懸命説明していました。また、中間発表よりもよりスムーズに発表が出来るようになっていました。

発表した生徒の分野別振り返りシートでは、「自分達が何時間かけて得た研究結果を10分以内でまとめて発表するのは難しいことがわかった。」、「次の発表に向けてさらに実験を重ねていきたいと思います。」との声があり、充実していた様子でした。最後に、各分野ごとに大学の先生から講評を頂き、発表会を有意義に終えることができました。

